

C

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

ERESPO NEWS

vol. 120

2020 February

上達する運動会
～Let'sエビバリ!
できることを見つけよう!～
開催レポート



東村山市

スポーツを通じた共生社会の実現へ

パラスポーツ運動会

REPORT

考えや想いを受け取って、
体現していく

今回のイベントでは、企画・会場設営・運営等をお手伝いさせていただきました。パラスポーツのイベントのお手伝いは初めてでしたが、僕自身が、2018年に開催したセレスポの創立40周年記念運動会でプロジェクトメンバーを務めていたこともあり、その経験を競技や運営面に生かしながら、ご提案することが出来たと思います。

どんなイベントでも、1つとして同じイベントはありません。色々な人が関わり合いながら、1つ1つオーダーメイドで作り上げていくものと僕は考えています。主催者さまの考えや想いを体現していくことがイベントの仕事の腕の見せ所。このパラスポーツ運動会では、参加した子どもたちを楽しみながら障がいに対する理解を深めて自分の未来につなげてほしいという東村山さんの想いが込められています。最初から最後まで楽しそうな笑顔の子どもたちや、負けじと本気を出してしまう大人チームをみて、その想いは伝わったのではないかと感じています。夢中で楽しんでいる参加者を見て、このイベントの成功を感じました。今日参加した子どもたちにとって、東京パラリンピックがより身近に、楽しい大会になってくれれば、とても嬉しいです。



〇×クイズ
パラスポーツに関する〇×クイズで各チームの残り人数で対決する



サイレントムカデ競走
ムカデの先頭以外は掛け声禁止。マスクをして競技します



ブラインドドリプル競走
アイマスクをつけた人がドリプルをし、つけていない人が誘導してゴールを目指すリレー



ボッチャ
正方形の4辺から中央の円の中にボールをいれ、その数を競うオリジナルルールのボッチャ



INTERVIEW
島村 昭弘さん
東村山市 地域創生部 市民スポーツ課

EVENT DATA
東村山市 パラスポーツ運動会
2020年1月11日
【開催地】東村山市民スポーツセンター
【主催】東京都東村山市



黒津晴良 くらつ はるよし
株式会社セレスポ 西東京支店



社会の実現。もう1つは、東京オリンピック・パラリンピックへむけた気運醸成の意味を込めた開催でした。ゲストでいらっしゃった永尾嘉章選手もおっしゃっていました。この夏は、たくさんの方や障がいのある方が日本やこの東京に集まること予想されています。その時に「なにかお手伝いすることはありますか？」と一言声かけられる人になってほしいと思つています。目が見えない、耳が聞こえない、車いすに乗っているという

ことを実際に体験していること、で、なにか不自由なのか、どんなサポートがあると良いのかと想像することができずすよね。今すぐになにかできなくても、子どもたちが大人になった時に繋がるような体験になればいいと思つています。今回の運動会が、家族やお友達の中で話題になって、これから先の未来を担う子どもたちの障がい者理解のきっかけになってくだされば、主催者として嬉しい限りです。



シッティング玉入れ
座った状態で玉入れを行う。チーム内で4名は車いすに乗って参加する



障がい物競走
車いすに乗って、コーンをジグザグに進んでいくリレー形式の競争



東村山市 スポーツを通じた共生社会の実現へ パラスポーツ運動会

1月11日、東村山市民スポーツセンター(東京都東村山市)にて、パラスポーツ運動会が開催されました。市内の小学生で約100名が参加したこの運動会。今回は主催の東村山市の島村さんにお話を伺いました。

「小学生の3チームと大人の1チームが全力でぶつかりあった今回のパラスポーツ運動会、とても盛り上がりましたね。はい。6つの競技を行いました。が、どの競技にもパラスポーツの要素が取り入れられていたので、今までやったことのない競技になって、大人も子どもも関係なく楽しんでいただけただけではないかなと思つています。どの競技も盛り上がりつつあると思いますが、一番盛り上がりつつあるのは、同点だった2チーム同士の優勝を決定する、最後のボッチャ対決かなと思つています。当初は、チーム代表同士がじゃんけんをして決定する案も出ていたのですが、最後の競技のボッチャが思った以上に盛り上がりつつあったのでその延長で急遽ボッチャ対決になりました。東村山市では、普段からボッチャを一つのコミュニケーションツールとして活用していて、市内や学校の授業で体験会をやっているの、比較的多くの方がボッチャに慣れ親しんでくれているのも一つの盛り上がり要因だと思つています。全員で最後まで盛り上がりつつ、本場に良かったです。開催にあたり大変だったことあれば教えてください。」

「今回の運動会を通じて、伝えたいことはなんですか?」
1つは、スポーツを通じた共生

大変な部分も多かったですが、中でも不安だったのは集客ですね。運動会というところで出来るだけ多くの子どもたちに参加してもらいたかったのですが、市内の小学校にも周知を行って、当日は200人近い参加者が集まってくれました。チームは、学校や学年で分けてはいますが、シャッフルして組んだのですが、競技をしているうちに仲良くなっていき、上手く協力しながら高得点を狙っている子どもたちの姿をみて、改めてスポーツが持つ強みや、良さを感じました。

普段は自分達で企画・運営を行うことが多いのですが、今回はそれらをセレスポさんをお願いさせていただきました。打ち合わせの段階から色々細やかなご提案をいただいたり、臨機応変な対応をいただいたりして、とても助かりました。競技も、車いすを使用したり、ブラインドやサイレントの要素を取り入れて、出来るだけ多くの人数が参加できるものをご提案いただいたので、子どもたちも色々なことを考えるきっかけになったのではないかなと感じています。





上達する運動会 ～Let'sエビバリ! できることを見つけよう!～ 開催レポート

2020年2月16日に、たきがしら会館（神奈川県横浜市）にて「上達する運動会 ～Let'sエビバリ! できることを見つけよう!～」を公益財団法人横浜市体育協会、株式会社LAVA Internationalと共同開催いたしました。

当日は小学校低学年のお子様を中心に総勢約100名のご家族が参加。セレスポからは、セレスポ陸上部による「かけっこ教室」を展開。陸上選手が実際に行っているトレーニングを体験したり、走り方のコツを伝授。一緒にカラダを動かしながら走る事の楽しさを感じていただきました！他にも「ゆるスポーツ」「車いすバスケットボール」「チアダンス教室」も用意されており、年齢や障がいの有無に関係なく、参加者全員が楽しみながら出来ることが少しずつ増えていく。その瞬間の楽しそうな子どもたちの笑顔がとても印象的なイベントでした。



編集後記

今月号のコラムで取り上げた「上達する運動会」。私もこの運動会で、初めて車いすバスケットボールを体験したのですが、ドリブルをするのも車いすでコートを移動するのも一苦労。そんな私でも、奇跡的にシュートを1本だけ決めることができました。その時の感情は、日頃あまり出会えない感覚の嬉しさでした。出来ることが増えていくことは、大人になっても嬉しいし楽しいものですね。子どもたちの、1つ1つの挑戦と、出来ることを積み上げていく最中の笑顔にも“上達”を感じ、これからもこんなイベントを開催していきたいと改めて思いました。

[発行日] 2020年2月25日
 [発行元] 株式会社セレスポ
 〒170-0004
 東京都豊島区北大塚1-21-5(本社)
 TEL / 03-5974-1111
<http://www.cerespo.co.jp/>
 [デザイン] META+MANIERA
 CERESPO NEWSに関するお問い合わせは
 株式会社セレスポ コーポレートデザイン室
 (cd@cerespo.co.jp)まで

f cerespo1977
 @cerespoPR

セレスポ公式SNSが
 絶賛稼働中。
 お気軽にフォローください!